

幕藩政アーカイブズの総合的研究

国文学研究資料館 編
2015年2月刊行

▶ A5判・504頁／定価：本体8,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1798-4

明治になって初めて導入されたと認識されてきた「近代的」な文書管理システム——しかし、その萌芽的システムは近世後期にすでに形成されていた。吏僚制の幕藩組織において、より効率的・継続的な統治を行うために、一定水準の文書管理システムの構築は必要不可欠なものであったからある。

本書では、幕政・藩政文書それぞれの管理・伝来について具体的に検討し、各藩において文書管理の実務にあたったものたちへ焦点を当てることで、幕藩文書管理の歴史に新たな知見を示す。近世から近代へとつながるアーカイブズ研究にさらなる実証的研究を積み上げる、国文学研究資料館共同研究の成果。



◎予定内容目次◎

序章 幕藩政文書管理史研究と本書の概要
(高橋実・国文学研究資料館名誉教授)

第1編 幕政文書の整理と管理

第1章 幕府勘定所における文書の整理と管理
(戸森麻衣子・早稲田大学エクステンションセンター講師)

第2章 長崎奉行所文書の引継ぎと管理について
(高橋実)

第3章 京都町奉行所付雑色筆耕について
——文書行政と民間社会を媒介する実務者
(富善一敏・東京大学経済学部資料室特任専門職員)

第2編 藩政文書記録の管理と伝来

第4章 善光寺地震における
松代藩の情報収集と文書管理
(原田和彦・長野市立博物館学芸員)

第5章 尾張藩徳川家における文書の伝来と管理
(太田尚宏・国文学研究資料館准教授)

第6章 土佐藩山内家文書の伝来と管理
(藤田雅子・土佐山内家宝物資料館学芸課長)

第7章 熊本藩家老松井家文書の成立過程
(林千寿・八代市立博物館未来の森ミュージアム学芸員)

第8章 対馬藩における文化九年「毎日記」の
引用・書き分けと職務
(東昇・京都府立大学文学部准教授)

第3編 藩政文書記録の管理・編纂担当者

第9章 弘前藩江戸藩邸における
日記方の設置と藩庁日記の管理
(中野達哉・駒澤大学文学部教授)

第10章 米沢藩記録方の編纂事業に関する基礎的考察
(浅倉有子・上越教育大学院学校教育研究科教授)

第11章 近世中後期岡山藩における
留方下僚の存立状況
(定兼学・岡山県立記録資料館館長)

第12章 萩藩当職所の文書管理と当職所記録方
(山崎一郎・山口県文書館専門研究員)

第13章 鳥取藩の領知判物発給と担当役人
(来見田博基・鳥取県立博物館主任学芸員)

第14章 対馬藩における表書札方の設置と記録管理
(山口華代・長崎県立対馬歴史民俗資料館主任学芸員)

第15章 薩摩藩の藩政文書管理と筆者
(林匡・鹿児島県歴史資料センター黎明館学芸課長)

終章 近世における文書行政の高度化と明治維新
(吉村豊雄・熊本大学名誉教授)

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	幕藩政アーカイブズの総合的研究		本体8,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1798-4
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	☐ 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) ☐ 代引 (書籍代+送料400円を現品と引き替えにお支払い)			本書HPのQRコード 書店番線印	

幕末期の老中と情報

水野忠精による風聞探索活動を中心に

佐藤隆一著

水野忠精を題材とした老中の情報収集を軸に、同時代の他の事例も交えて、幕末期の老中による政治情報収集の実態とその情報内容、さらにはこれらの扱われ方を実証的に分析することで、基本的な老中の情報収集ルートの枠組を明らかにする。

▶A5判・520頁／本体 9,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1702-1

京都雑色記録 [全3冊]

朝尾直弘編

京都大学史料叢書

近世京都の雑色は、所司代・町奉行の下にあって、町代と並ぶ行政の支柱となった役人。本記録は、上雑色五十嵐氏の諸記録と、下雑色小島氏の留書(日記)をおさめたもので、「雑色要録」の欠落部分をみたすとともに、半屋敷における日常の生活・管理の様子を具体的にうかがうことのできる第一級の史料。

▶A5判・平均370頁／各本体 14,000円(税別)

近世長崎司法制度の研究

安高啓明著

幕府直轄領には旗本を派遣し、幕府法を遵守しながら歴史的土壌かつ地域性を包含した支配を行なった。本書では、長崎奉行所で構築されていた司法制度のもとでの、長崎奉行所の司法権限に迫った。また法の浸透過程と受容した長崎奉行所の法体系を見出し、判例集「犯科帳」から当時犯罪に関与した人間模様、裁判の実相を明らかにする。

▶A5判・504頁／本体 5,700円(税別)

ISBN978-4-7842-1477-8

熊本藩の地域社会と行政 近代社会形成の起点

吉村豊雄・三澤純・稲葉継陽編

永青文庫細川家文書に大量に残された地方行政記録綴「覚帳」や、村役人層をはじめとする住民の評価・褒賞記録綴「町在」の系統的分析を行うことで、19世紀段階の近世行政システムの全容を解明し、さらにそれらが近代社会の成立や地域の近代化にとって、どのような前提条件を提供することになったのかを明らかにする。

▶A5判・420頁／本体 9,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1458-7

畿内の豪農経営と地域社会

渡辺尚志編

18世紀末以降、河内国丹南郡岡村(現藤井寺市)の庄屋を世襲した豪農・地方名望家が岡田家であり、近世・近代において同家が作成・授受した「岡田家文書」は、1万数千点にもおよぶ。近年整理が進められている岡田家文書を多角的に分析し、畿内における村落と豪農の特質を経済・社会構造の観点から解明する。

▶A5判・508頁／本体 7,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1385-6

近世京都近郊の村と百姓

尾脇秀和著

佛教大学研究叢書22

京都近郊に位置し、公家・寺院領を中心とする相給村落であった山城国乙訓郡石見上里村(現・京都市西京区大原野石見、上里)と、同村百姓にして公家家来でもあり、庄屋・医師・手習師匠としても活動した大島家を研究対象にとりあげ、近世百姓の変容と実態を多面的に明らかにする。

▶A5判・294頁／本体 4,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1731-1

老農・中井太一郎と農民たちの近代

大島佐知子著

農業近代化の過程で重要な役割を果たした「老農」といわれた農事改良者たちは近代化のなかで忘れられた存在である。除草機「太一車」の発明者として知られる中井太一郎について、ライフヒストリーを丹念にたどりながら、彼の技術・思想や、その全国巡回を支えた組織・団体などを明らかにする。

▶A5判・388頁／本体 7,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1710-6

北垣国道日記「塵海」

塵海研究会編

北垣国道(1836-1916)は、京都府知事に就任した明治14年(1881)から、北海道庁長官・拓殖務次官などを経て、隠棲した明治34年(1901)までの活動や人々との交流を日記に書き残した。明治期地方官の実情を記し、京都のみならず中央政治史や地方自治・土木史・北海道史研究に寄与する資料。

▶A5判・652頁／本体 9,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1499-0

※近代日本と幕末外交文書編纂の研究

田中正弘著

外交文書の編纂事情、編纂した外交文書集の内容構成、諸本の性格、また徳川幕府外国方の編集構想から明治初期外務省の編集組織の確立過程、太政官における幕末外交文書編纂の開始事情とその後の推移など、広範な第一次史料を駆使してその全容をはじめ具体的に考察。

▶A5判・480頁／本体 9,800円(税別)

ISBN4-7842-0958-1

佐治重賢氏所蔵 小堀政一関係文書

佐治家文書研究会編

佐治重賢氏所蔵文書(総点数7千点)のうち、特に近世前期政治史に重要な位置を占め、また茶人としても著名な小堀政一(遠州)に関わる文書を三部構成で翻刻・収載。小堀政一関係文書は、国奉行・代官の史料としては希有のものであり、近世初期の幕府支配の様子を極めて具体的に知ることができる。

▶A5判・390頁／本体 8,800円(税別)

ISBN4-7842-0921-2

※長崎奉行の研究

鈴木康子著

17世紀後期から18世紀中期の約100年間の、長崎奉行の職掌や幕府内における長崎奉行の位置づけの変化、そして長崎奉行自体の特質が変質してゆく状況を解明し、その背景となる幕府の経済政策の推移や、日本側の外国人に対する意識の変化などについても考察を加える。

▶A5判・420頁／本体 6,200円(税別)

ISBN978-4-7842-1339-9

※近世史小論集 古文書とともに

藤井譲治著

日本近世政治史研究の泰斗である著者が、研究をはじめたころからごく近年にいたる間に書いた小論のうち、あまり目にとまらないところに収められたもの、入手の困難なものの中で著者の主要な研究の前提、あるいはその後の展開にかかわる論考を集めた。2012年3月の京都大学退職にあたり、約40年におよぶ研究の軌跡を振り返る。

▶A5判・490頁／本体 6,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1621-5

一九世紀の豪農・名望家と地域社会

福澤徹三著

19世紀の豪農・名望家と地域社会の関係を、上位権力と都市と取り結ぶ関係にも留意しながら総合的に検討することにより、近世・近代移行期の特質を解明するための地域社会論の提起をする。中核的豪農と一般豪農の経営レベルの比較、金融活動の分析を中心に、その生業・営為を近世・近代を通じて明らかにする。

▶A5判・330頁／本体 6,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1642-0

牛と農村の近代史 家畜預託慣行の研究

板垣貴志著

近代化のなかで発展から取り残された中国山地。そこでは前近代的ベールに包まれた家畜預託慣行が急激に拡大していた。本書は、牛を介して取り結ばれる人々の社会関係を明らかにし、それが近代農村で果たした歴史的意義を解明する。歴史の片隅へ押し流されながらも、地域社会の調和と共存のために努めた名もなき農民群像を描く。

▶A5判・266頁／本体 4,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1725-0

近代地方政治と水利土木

服部敬著

淀川・安威川・神崎川の水利構造の変遷と分析、沿岸住民の治水運動と中央・地方議会と政党の対応、近代化の意味と中央集権的近代国家の性格を地域史の視座から問う。【内容】近代国家の成立と水利慣行／水利組合の成立とその機能／淀川改修運動と地方政治の動向／日露戦後の農事改良政策と水利問題

▶A5判・400頁／本体 6,600円(税別)

ISBN4-7842-0873-9

京都の歴史災害

吉越昭久・片平博文編

歴史上、京都を襲ったさまざまな災害をとりあげ、地理情報システム(GIS)などによる災害範囲や規模の復原、特徴や被害発生率の社会的背景の分析、また人々の取り組みなどを論じる。地理学、歴史学、工学など多様な分野の研究者による、立命館大学G-COEプログラム「文化遺産の防災」プロジェクトの成果。

▶A5判・322頁／本体 2,300円(税別)

ISBN978-4-7842-1643-7

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。